(氏名) 矢　野　修　一	(学部)　経済学部

1　重要事項

◇論文執筆；

高崎経済大学地域科学研究所発行『産業研究』第 54 巻第 2 号（2019 年 3 月）に「ブレトンウッズの開発経済学的基礎」（pp.1-22）を寄稿した。ブレトンウッズ会議の交渉前史、思想的背景を振りかえり、これまで必ずしも重視されてこなかったブレトンウッズ体制における「国際公共開発」の重要性、「開発に親和的な体制」としての側面に光をあてた。

◇学会座長；

日本国際経済学会第 77 回全国大会（2018 年 10 月 13 日・14 日、関西学院大学）の自由論題セッション「アジア経済１」において座長を務め、3 つの報告に関する発表・討論を円滑に進めた。

◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導；

2010 年度～2017 年度に続き、日本企業のケーススタディを柱とする「高大コラボゼミ」を企画し各種指導を行った（4 月 17 日・24 日、5 月 8 日・29 日、6 月 12 日、7 月 3 日・10 日、8 月 28 日、9 月 4 日）。経営支援ＮＰＯクラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生による JAL、IHI、テルモ、三菱商事、明治製菓、キューピー各社の訪問・インタビュー（8 月 10 日）をアレンジし、9 月 8 日の成果発表会（高経大 731 教室）につなげた（自身は三菱商事担当）。

成果発表会当日は、高経大・高経附の現役大学生・高校生のほか、コラボゼミを経験した両校卒業生、高・大教職員、保護者、一般市民、マスコミ関係者等、数百名が出席した。発表会の様子を伝えるテレビ番組（群馬テレビ「はばたけ！ぐんまの子どもたち」11 月 3 日放映）のインタビューに応じた。

◇『高大コラボゼミ 2018 年度成果報告書』の編集補助；

2018 年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生の感想・コメントをとりまとめ、成果報告書の編集を補助した。報告書は関係各方面に配布された。

◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第 26 号（2019 年 3 月刊）の監修および編集；

1994 年 3 月の創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2018 年度も総勢 16 名の卒業論文の執筆を指導し、400 頁を超える卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人のほか、保護者やゼミの後輩らに配付された。

◇授業評価アンケート結果（科目名・ポイント・前回比）；

世界経済論Ⅰ：95.6（↑1.3）、世界経済論Ⅱ：93.0（↓0.3）

開発経済論：97.1（↑1.1）

2　その他の事項

◇出前授業①；

高崎市立高崎経済大学附属高校 1 年生向けに、ディベートの方法論や考え方について講演を行った（5 月 1 日、高経附）。

◇出前授業②；

青森県立八戸東高校 2 年生を対象に「経世済民―社会科学としての経済学」の講義（70 分×2）を行った（10 月 2 日、八戸東高校）。

◇講演①；

群馬県商業教育研究会授業改善研究部会において「商業高校におけるアクティブラーニングを考える」と題する講演を行った（9 月 20 日、群馬県立高崎商業高校）。

◇講演②；

社会福祉法人ふれあいコープ（栃木県宇都宮市）にて、職員研修の一環として「日本社会の展望と私たちの暮らし」と題する講演を行った（9 月 25 日）。

◇講演③；

栃木県生活協同組合連合会「役員・幹部職員学習会」において「安倍政権下のグローバリゼーション」と題する講演を行った（12 月 17 日、宇都宮マロニエプラザ）。

◇講演④；

公立大学法人宮城大学高大連携シンポジウム「大学と高等学校の協働による探求型学習のさらなる可能性を探る」（2 月 18 日、住友生命仙台中央ビル）において、「高崎経済大学『高大コラボゼミ』の成果と課題」と題する基調講演を行うとともに、パネルディスカッションに登壇した。

講演およびパネルディスカッションの内容については、『実施報告書』（宮城大学、2019 年 3 月刊）に収録された。

◇学術講演会等のアレンジ：

高崎経済大学経済学会主催行事として、寺西俊一氏（一橋大学名誉教授；演題「福島原発事故から 7 年余―いま、何が問われているか」6 月 29 日）ならびに大泉啓一郎氏（日本総研研究員；演題「新貿易立国をめざして」12 月 9 日）の学術講演会、また宮島良明氏（北海学園大学教授；演題「アジア化するアジアの現場」12 月 10 日）の学習会の開催をアレンジした。

◇群馬県立前橋女子高校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）運営指導委員：

運営指導委員会（7 月 9 日、1 月 26 日）、SSH 成果発表会（1 月 26 日）に参加し助言や意見交換を行った。

◇高崎経済大学図書館長としての活動；

館長として、緊急時の対応指針策定、大学院早期履修者の利用環境改善など、図書館の効果的運営に努め、2 年の任期を終えた。

◇ポシビリズム研究会主宰；

1998 年から活動を続けるポシビリズム研究会（ゼミ卒業生との研究交流、共同研究を目的とする）を実施し、卒業生・現役学生の交流の場を広げた（11 月 3 日・4 日、高崎経済大学 4 号館）。

◇就活サポート事業実施（3 月 1 日、TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター）；

ゼミ卒業生の支援を受けながら、現役ゼミ生のエントリーシートの作成や面接などについて指導を行った。東京会場でのこうしたサポートプログラムは 2007 年から 13 年連続して実施。

3　次年度以降の計画・抱負

研究面では、引き続き様々な分野の研究者と交流しながら、「グローバル経済のガバナンス問題」や「民主主義の課題と可能性」について考察を深める。

教育面では、例年通り、授業の高評価（学部平均点＋10 ポイント）を維持できるよう、講義内容の学問的基盤をさらに強化するとともに、授業の準備に努める。

県外出身者が多く、中期日程入試の定員が大きな本学、すなわち「不安」と「不満」を抱きがちな学生のあふれる「全国型公立大学」において、充実したゼミ活動などを通じ、次世代を担う若者に向けて「3 つの出会い」（「人との出会い」「ものの見方・考え方との出会い」「新たな自分との出会い」）の場を提供し続けたい。